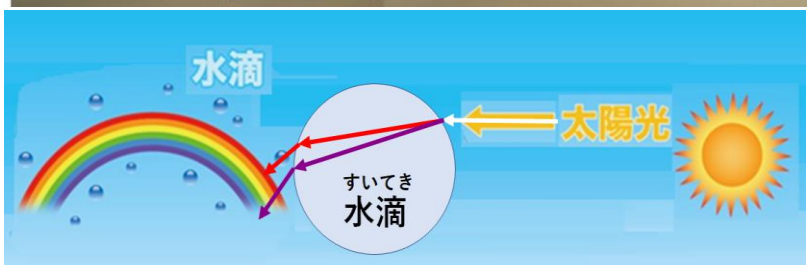
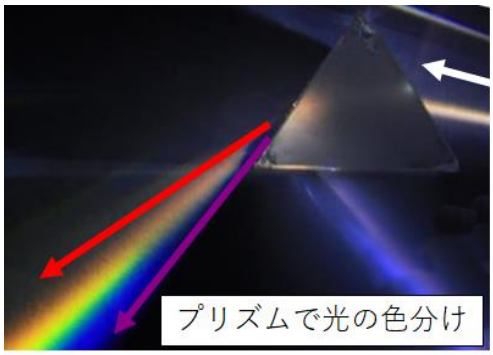
夜明け前に三苫海岸を散歩しました。朝焼けや、虹を見ました。

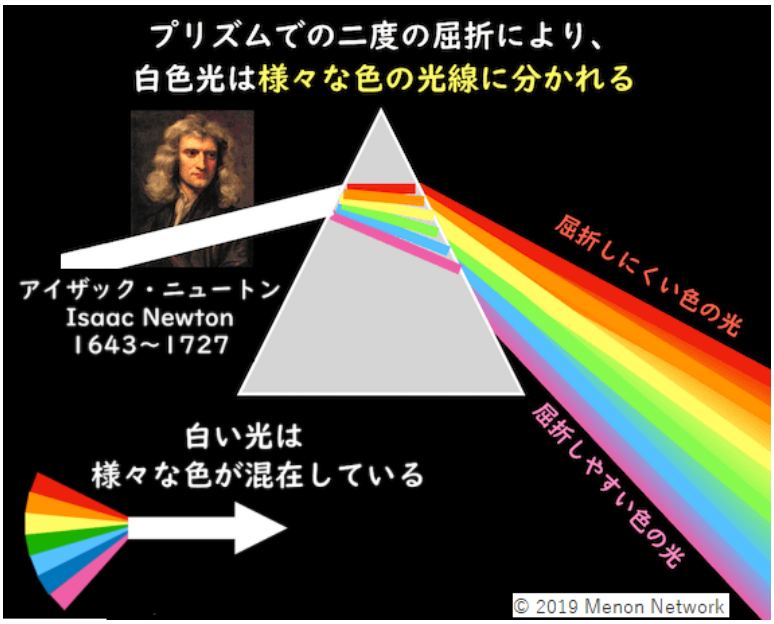
令和３年２月１５日（月）　篠原校長

２月１４日(日)の夜明け前、まだ少し暗い頃に三苫海岸をウォーキングしました。遠くに見える相島（新宮）には明かりが灯っているのが見えました。しばらく歩いているとあたりもだんだん明るくなり、空の雲が赤く照らされてきました。朝陽が昇り始めたようです。相島の方向の海の上では、雨が落ちているようです。「これは虹が出るな」と目を凝らすと、薄い虹がかかっていました。虹は太陽と反対の方角にかかります。昇り始めの太陽は東なので、西側の低い空に虹がかかりました。



皆さんは、プリズムを使って虹を出す実験をしたことがありますか。白く光って見える太陽の光は、実は、大きく分けて「青、緑、赤」の「光の三原色」があって、それが混ざり合うと白く光って見えるのです。その他のたくさんの色も混ざり合って白く見えているのです。



そして、それぞれの色の光は、ガラスや水を斜めに通過するときに「屈折」して、角度が変わります。それぞれの色の光の波長によって屈折率は違うので、白い光は、様々な色に分かれて映し出されます。それが虹色です。

この「白い光は、様々な色の光が混ざり合ったものである」という事実を発見した物理学者は、アイザック・ニュートン（1643～1727）なのです。